

41年度より生徒数が増加した4級、5級にあっては、それ以後において急速な減少状況を示している。

1級及び2級にあっては、昭和46年度から昭和51年度における生徒数の減少状況が昭和42年度から昭和46年度におけるその減少状況よりも緩慢となっている。

3級にあっては、生徒数の減少状況が年を追って急速になっている(図2-3-4)。従って、今後は、へき地(農山村部)の特性を生かしながら、教育諸条件の整備については最大の努力を払い、教育機会の均等の立場からの条件整備を図る必要がある。

#### (4) 学校配置

学校の配置状況を昭和41年度から昭和51年度までの学校数推移からみると、本校は昭和41年度に317校であったものが、昭和51年度に265校となり、年平均5.2校の大幅な減少を示している。

また、分校は昭和41年度に12校であったものが、昭和51年度に2校となり、この10年間に10校の減少となっている(図2-3-5)。

学校の廃止、設置状況を、昭和42年度から昭和51年度までの廃止学校数及び設置学校

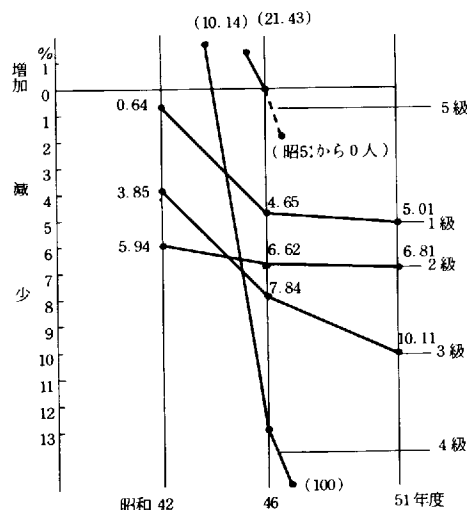
数の推移からみると、廃止学校数は昭和47年度に本校16校、分校1校で最高となり、以後急速な減少傾向を示し、昭和51年度においては、本校1校のみとなっている(表2-3-2)。

その廃止の主な理由は、分校の本校への吸収、近接中学校の中心校への統合となっている(「学校統計要覧」(昭42~昭51))。

一方、設置状況は、昭和42年度から昭和51年度までにおいて24校となっているが、それはすべて統合によるものとなっている(表2-3-2)。

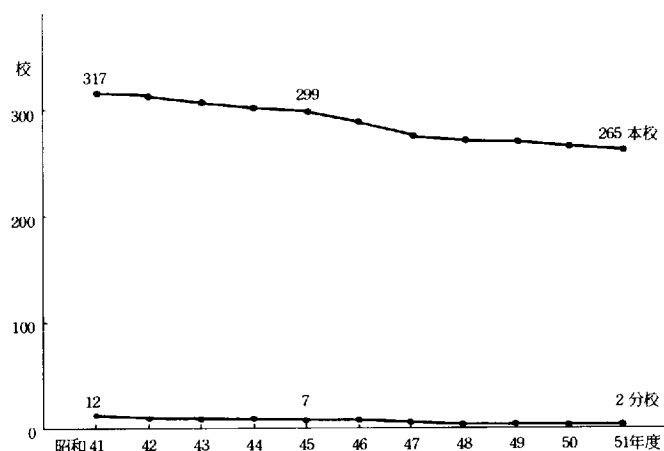
地域別学校の配置状況を昭和41年度、昭和45年度、昭和51年度における学校数の比較からみると、

図2-3-4 へき地における前年度生徒数に対する減少生徒数の割合



注：n年度の割合は{(n-1年度の子生数)-(n年度の子生数)}÷(n-1年度の子生数)×100による。

図2-3-5 本校数及び分校数の推移



注：1. 「学校統計要覧」(昭51)による。  
2. 校数には、国、私立を含む。